



ご入園・ご進級おめでとうございます

初めに、新入園児の保護者の方のために、園長の自己紹介をさせていただきます。私は1963年に京都で生まれ、今年で61歳になります。長女は結婚して4年目、今は大学院4年目になる次女と妻の3人暮らしです。

滋賀県彦根市にある滋賀大学に在学中、滋賀YMCAでボランティアリーダーをしておりました。卒業後は、神戸YMCAで主に青少年活動に携わり17年奉職した後、イエス団の本部事務局で10年間勤め、当園は今年で10年目です。

さて、みどり野保育園は「キリストの精神」を大切にしていますので、2024年度の年間聖句と年主題を以下のように決めました。

<年間聖句>

「隣人を自分のように愛しなさい。」マタイ 22・39（新共同訳）

<年主題>

「きみがすき、きみがだいじ、きみといくよ」（こどもさんびか 132）

先進国の中で日本は「自分を好きになれない、自己肯定感をもてない。」人の割合が多いというデータがあります。特に若い女性に多いそうです。SNSのツイッターなどから「他者に承認を求める若者の実像」が見えてきます。周りの人を自分のように愛しなさいと言われても、自分自身が愛されている、もしくは、承認されている実感がなければ、どのように愛していいのかわからないのかもしれない。

こどもは、身近な人に愛されて育ちます。通常はそれが、母親であったり、父親であったりしますが、それが満たされない場合、こどもは荒れます。私たち園長も保育士も常にこどものことを考え、愛情を注いで日々過ごしていますが、園長、保育士は保護者の方々にはかないません。こどもの根本欲求を満たすものは「ひとりの特別な存在」である、ほんとうの家族でしかないのです。

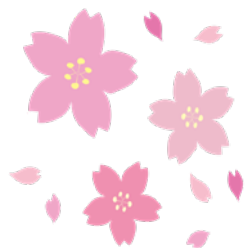
聖書では、親も含め人間は不完全な存在で、いつも完全な愛で人を愛せる存在であると位置づけていません。それゆえ、弱い人間を、神さまがいつも見守り、愛してくださっているということが支えとなると書いてあるのです。

ロシアのウクライナ侵攻やイスラエルでの戦争は多くの死者と難民を生み出しています。また、能登半島地震でも多くの人々が非日常生活を強いられ、悲しみ、怒り、疲れ、絶望などの感情が渦巻いています。

私たちの日常生活においても事柄の大小はあれ、一人では抱えきれない課題や悩みがあります。けれども、それを共に支え合うことはできると考えています。

他の人を自分のように愛し「君のことが好きだし、大事なんだよ、いつも君といっしょにいるよ」とはなかなか言えませんが、そのことができるように、今年度も頑張っていきたいと考えています。

日頃から、遠慮なく気軽にお声掛けください。少しお話するだけでも心が通じ合うことがあると考えるからです。それでは、これからどうぞよろしくお願いいたします。



2024年4月1日

園長 中田一夫